

イタリア協同組合訪問ツアーに同行して

五十嵐 久吉 (東京都/センター事業団東京北部大山事業所)

95年12月15日より12月22日の日程にて成田より出発しミラノ—ボローニヤ—フィレンツエ—ローマと廻りました。最初の訪問先ボローニヤ、「人民の家」にて責任者及組合員と一緒に食事し色々話を聞きました。人民の家とは市民が集まり交流する多目的ホールで食事をしたりお茶をのんだり又ダンス、ゲーム等をするホールで皆さん大変楽しく交流して居りました。

A) 次に訪問したのはボローニヤ協同組合であり、組合の成り立ちより現在に至るまでの説明を聞く、まず当初は鉄道清掃より始まり現在では

- ①衛生部門 (病院及公立部門)
- ②エネルギー部門
- ③建設部門

建設部門にて建物の内部を修復する場合、建物全体を買取り1年、2年又は10年近くもかけて修理する。内部の美術品は時代物でそう簡単には修復出来る物でない。日本ならば建物の内の物を修理、修復する場合は其の物1個又2個を引取り修理してるが、此の点イタリアでは建物全体を買いとり修復するやり方は大変良い方法だと思った。直した後はオーナーに売り渡すとの事である。

- ④教育、清掃部門 (エコロジー)

以上4部門に別れて組合活動を行って、年々利益を上げてる。

1992年協同組合法を作りそのさい出資金の額をきめる、出資金は最低で1500万リラ (日本円にして約10万円) 最高で1億2千万リラとの事である。協同組合員に対する教育は年約1,590H、また、教育費として1億4千万リラを使用するそうです。

以上の如く組合の財源は出資金であるとの事で私もあらためて出資金の重要性を再認識させられ

ました。

- B) ボローニヤ、ホームヘルパー協同組合訪問

- ①病院関係、病人の看護
- ②老人、片親たちの教育
- ③精神病院の人達を5名~15名ぐらい入れる部屋を借りそこで面倒を見ている。
- ④麻薬患者の人々を市と組合が協同で見ると。
- ⑤老人ホームの面倒を見る。

現在のボローニヤ、ホームヘルパー組合員は376名との事で5~6%がパートで後は職員である。市からの資金がだんだん少なくなってるのがこまりのたねとの事である。

- C) フィレンツエ協同組合訪問

- ①工業、教育、病院、公園の清掃
- ②病人の看護
- ③市民のゴミ、工業廃棄物
- ④ホテルの管理
- ⑤航空写真

以上の業務を行ってるが公共事業の入札後の作業をしっかりしないと大変きびしい。以前は市の監査を良く受けたが最近は良くなって来てる。フィレンツエの組合員の50%以上は女性でしめてる。

入札は日本と同じく大変きびしいとの事です。

イタリア協同組合訪問ツアーに同行しての組合活動の感想ですが出資金の重要性が大事かと思いきらされました。残念な事は組合員が現場にて、いかに活動してるか、時間的に無理のため現場を見学出来なかった事です。

今一度イタリア訪問ができるようローマにてテレビの泉でコインを投げ入れて来ました。